

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス スマイリー		
○保護者評価実施期間	令和7年12月13日		～ 令和8年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和7年12月13日		～ 令和年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人母体が医療法人のため、医療面において相談できる体制がある。受診が必要と思われた際、病院が隣接しているため、徒歩で行くことができる。令和7年9月からはリハビリセンターも近くなったため、リハビリスタッフとも情報共有ができています。	協力医に当日の利用人数を連絡し、午後からの診察をお願いしている。 医師が出張で不在時は、メールで朝夕の報告を行い、また、助言を受けることもできる。	同法人内の訪問看護ステーション、相談支援専門員、医師、リハビリスタッフとも今後も必要に応じて連携していく。
2	「静」と「動」の活動を今後に行えるよう、プログラムを工夫している。特に「動」の活動では、大型トランポリン・大型ボールプール、スイング等の備品があり、普段、経験出来ない活動を提供することができている。 デイルーム以外に広いスペースが利用できる。	大型遊具が使える広いスペースを利用して、安全に活動が行えるように対応している。 看護師が常に体調面を把握して、体調不良時には休息できるよう配慮している。	季節を感じられる活動になるよう工夫していく。 夏にはベランダでプールを楽しんでいるが、安全に行えるよう留意しながら行っていく。 ベランダ菜園を同法人内の生活介護事業所と行い、季節の野菜やお花を育て、収穫する喜びが得られるようにする。
3	未就学から就学になる児童に対して、主に法人内の児童発達支援センターや相談支援事業所より、対象児童に関する情報を得ることができ、事前に見学を行い活動の様子を拝見するとともに、医療的ケアに関する情報などを得ることで、適切に移行することができている。	児童発達支援センターの管理者等から児童に関する情報を得ることで、利用児童の獲得に繋がっている。	「障がい児支援関係事業所連絡会」に参加することで、他事業所の児童発達支援センターや相談支援事業所と顔の見える関係作りを強化していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流活動がほとんど行えていない。	医療的ケア児が通所するデイで、コロナをはじめとする感染のリスクがある。	コロナウイルス、インフルエンザなどの感染症の動向を把握し、安全に交流ができる方法を模索する必要がある。
2	保護者向け研修や茶話会の開催がコロナウイルス感染症拡大以降、出来ていない。	土曜日みの開所、他の曜日での開催は、スタッフの勤務上、行えない。	コロナウイルス、インフルエンザなどの感染症の動向を把握し、安全に開催ができる方法を模索する必要がある 家族ずつの参観日形式を検討していく。 見学は利用日にいつでも行っていただけるよう案内する。
3	スマイリーオリジナルのお便りが定期的に発行できていない。	年4回、発行できるように努力しているが、週1日の開所のため、発行に要する時間が取りにくい。	連絡帳だけでは伝えきれない事業所の情報をもっと周知していく必要がある。